

出前講座 報告書

開催日時	平成28年8月22日(月) 14時55分～17時00分		
開催場所	ゆめぼりすセンター1階会議室		
申請団体等名称	ゆめぼりすセンター運営委員会		
テーマ	1 伊賀市ゆめぼりすセンターの指定管理の現状と仕様書との関係について 2 伊賀市市民活動支援センターの機能について		
委員会名等	総務常任委員会		
出席議員	安本美栄子、田中 覚、福岡正康、福田香織、近森正利、百上真奈、前田孝也		
		記録者	前田孝也

【講座・意見交換等の主な内容、対応等】

○ゆめぼりす運営委員会より

- ・市が市民活動支援センターを設置した当初は比較的活発に活動できていた。しかし現在では、新しい流れに追いつけず規模が縮小しており、見えてきた課題を今回提言としてまとめた。
- ・中間支援においては、広いジャンルの関係者がひとつのテーブルで話し合うことが大事だが、現状の指定管理では人員配置やバックボーンが欠けており、現場に飛び込んでいくような十分な活動ができない。
- ・現在の指定管理の仕様は厳しく、官民の新しいパートナーシップを培っていくには人員配置と時間等の自由な運用の担保が必要である。この点を改善すれば活動の充実につながると思う。
- ・市がセンターの業務を明確にすべきである。そして、それに必要な人件費や維持管理経費をしっかりと算定して指定管理料を決めてほしい。利用者増により業務量も増えており十分な人員と給与等がないと活動支援に注力できず、若い世代の人材育成も困難である。
- ・自治協に対する活動支援としてまちづくり計画の見直しに部分的に関わったりしているが、本格的に出向いていって取り組めるような体制や仕様に改めるべきである。
- ・限られた中で精一杯の活動をしており、市ができないことをセンターでできたらと思い、いろいろ投げかけているが応えてもらえていない現状である。
- ・センターの職員は嘱託と臨時職員になっているが、地区市民センターの自治センター化も含めて、市としての統一的な職員の基準を考えるべきだと思う。
- ・指定管理がワーキングプアの温床になっているのは全国的にも明らかであるので、市にもっと自覚してもらい、先進事例を参考に適正なかたちに改めていってほしい。
- ・財源は確かに必要だが、一番重要なのはマンパワーである。自治協では役員が短期で交代し、後継者不足が課題になっている。市職員も現場に出向いて、いっしょになって積極的に取り組んでもらいたい。

○総務常任委員会より

- ・仕様と予算がマッチしていないところは市と協議を進めていかなければならない。自治センター化が進んでいない中では、業務の選定などさらなる検討が必要である。
- ・行政ができないことを民間団体がしている事例は全国にも多く、中間支援の重要性と必要性を強く感じている。また、自治協に対する活動支援をもっと充実させる必要がある。
- ・協働の精神のもと新しいまちづくりをしていくためには、センターと自治協が強い関係を築いていくことが重要である。市と自治協がセンターをよりよく活用して、これからの課題解決に向けて取り組めるよう、今後も情報収集・共有しながら市長部局と議論していきたい。

伊賀市議会議長 様

平成29年1月10日

議会出前講座実施要綱第11条第1項の規定により提出します。

総務常任委員長 安本 美栄子